



日本で一般的なボール(左)と世界大会で使用されるボール(右)。右は布生地で柔らかく小さいため、片手でつかみやすく、速いボールが投げやすい。

# 今月のFujimist

江口 碧華<sup>あおか</sup>さん(ドッジボール日本代表)  
 図 文化・スポーツ振興課 ☎049-252-7139

子どもの頃に楽しんだドッジボールに世界大会があるのをご存じですか。令和4年12月にエジプトで開催された「Dodgeball World Cup Cairo (ドッジボールワールドカップカイロ) 2022」に、当時高校3年生ながら日本代表チームの一員として出場し、女子の部で銀メダル、男女混合の部で銅メダルを獲得した江口碧華さんは、世界で活躍する選手の一人だ。

「球速が速ければ必ずしも相手に当てることができるわけではないんです。味方とのパスワークによって相手を崩し、最後まで逆転できる可能性があることがドッジボールの魅力です」と語る江口さんは、市内ドッジボールチーム「イコール関沢」の体験会に参加したことがきっかけで競技をはじめ、どんどんのめり込んでいったという。

令和2年に行われたアジアカップでは4位入賞という成績を残しながらも、チームに貢献できなかったと悔しい思いもしたという。「アジアカップでの悔しさを忘れず、応

援してくれる家族やチームメイトのために頑張れたことが、世界大会での結果につながったと思います」と振り返る。

日本では1個のボールを扱う「シングルボール」が一般的だが、世界では5個のボールを同時に扱う「マルチボール」が主流で、扱うボールの種類も大きく異なる。「シングルボールの経験も世界で通用すると感じましたが、世界一になるためには、それだけでは足りないと感じました」と、種目の“二刀流”への挑戦を見据える。

また、日本代表としての経験を経て、競技の普及活動への意欲もより強くなった。「チームを勝利に導くプレーはもちろん、自分の活躍や普及活動を通じて、競技としてのドッジボールを世界中に広められるようになりたいです」と語る江口さんは世界を見つめている。

これからは大学生活という新たなフィールドで、世界大会優勝と競技の普及という大きな夢を乗せた一投を投じていく。

市公式  
ホームページ



SNS

LINE  
Facebook  
Twitter  
Instagram  
YouTube



【カタログポケット】広報『富士見』を多言語で



【マチイロ】広報『富士見』をスマートフォンで



【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴

人口と世帯数(4月1日現在)

人 □…113,089人(前月比 +292人)  
 (男 55,438人 女 57,651人)  
 世帯数…54,832世帯(前月比 +410世帯)



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

広報『富士見』は、市内の公共施設や駅などにも置いてあります。声の広報『富士見』(音声DAS/Yアイシー)版は市内図書館で貸し出しています(市ホームページで聴くこともできます)。

